第５回環境プラザ懇談会

※発言された方のお名前がわからなかった場合は「参加者」と表記させていただきました。

○宮田課長　それでは，７時になりましたので，プラザの懇談会を始めたいと思います。

開会に先立ちまして，原田部長から一言ごあいさつをお願いいたします。

○原田部長　おばんでございます。今日はこの冬２番目の寒さだそうで，大変寒い中をお越しいただきましてありがとうございます。

この懇談会も，今年１月１５日に開いて以来の懇談会です。前回の懇談会で様々な意見を出していただきました。特に，この環境プラザと全国の類似の施設の規模の比較，あるいは運営方法がどうなっているのか，それから，北海道環境サポートセンターの運営体制がどうなっているのかということが出ました。これらについては，それぞれ全国の施設の状況をまとめておりますし，また，北海道環境サポートセンターの運営体制については久保田さんの方でまとめていただいております。後程この説明と，久保田さんにも説明をお願いしたいと思っております。

それから，市民の皆さんから，この環境プラザで何をしたいかという意見を出してもらって，話し合いをしていきましょうとのことでありました。そういった意味で，今日は皆さんの様々な意見や要望が出されることを期待しております。

先月，少し時間をいただいて，京都の京エコロジーセンターという施設と，それから北九州の環境ミュージアムという施設を見てまいりました。それぞれの施設でいろいろとやられている事業のお話，予算なども聞きましたけれども，それぞれ大体５,０００万円から６,０００万円くらいのソフト事業費を持って，事業をやられていました。

札幌市はといいますと，前回もお話をさせていただきましたけれども，実はこの環境プラザの予算の中には，今のところそういったソフト事業費は認められていないという状況にあります。これからの話し合いの中で，多くの市民の皆さんが，この環境プラザで実施したい，あるいはプラザで実施をしてほしいということ，いわばソフト事業ともいえる内容について合意していけたらいいなと思っています。また同時に，それを実施できる予算を獲得していくことも必要でありますので，あわせてそういったことも考えていきたいと思っております。

この懇談会を開催するにあたりまして，今回も岡崎さん，それから新保さんから，様々な御意見や御提案をいただいております。大変感謝しております。後程岡崎さんからお話があると思いますけれども，提案の内容が皆さんの理解のもとでいい方向に拡大していけばと期待しているところであります。

それから，以前から二酸化炭素削減アクションプログラムについてのお話をさせていた

だいておりますけれども，今，予算議会が開かれております。このアクションプログラムとして約１億２,５００万円の事業費の予算要求をしています。それから，新聞などでご覧になってもう御存じの方もおられると思いますけれども，環境局の機構改革を行いまして，環境都市推進部という部をつくることになっています。ここにはエネルギー問題の担当部も配置して，温暖化対策を強化していくことになっています。当面，札幌市ストップ・ザ・温暖化キャンペーンとして，市長にマスコミの前で取り組みの宣言をしてもらうことになっています。これは間もなくそうなります。以前からお話させていただいている，Web版の環境家計簿への参加を始めとして，様々な取り組みについて，波状攻撃的に努めていこうと考えています。

経過報告を申し上げまして，あいさつにかえさせていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

○宮田課長　どうもありがとうございました。

今日も人数が少ないので，もう１回，今日また初めて来られている方もいらっしゃいますので，もう一度自己紹介をお願いしようと思うのですけれども。いかがでしょうか。簡単に，私の方から時計回りでお願いしたいと思います。

私，環境活動推進課長の宮田と申します。この懇談会の司会をさせていただいています。よろしくお願いいたします。

○新保氏　ひまわりの種の会の新保と申します。自然エネルギーの普及啓発をしています。円山動物園に市民の発電所を建てたいと計画しております。

以上です。

○岡崎氏　循環ネットワーク北海道の岡崎と申します。ごみそのものが少なくなって，持続可能な循環型社会ができるようなことを願う活動をしております。どうぞよろしくお願いします。

○中西氏　私たち２人ともそうなのですが，札幌市の保全協議会で，ごみ部門で４Ｒの会というのをつくりまして，ここにも参加させていただいた次第です。中西です。

○枡谷氏　桝谷と申します。よろしくお願いいたします。

○南氏　札幌消費者協会の南と申します。よろしくお願いします。

○平野氏　江別市から参加しました。今日初めてなのですが，隣にいる宇佐美さんと一緒に環境に絡む仕事もやっていますし，非常にこういった環境関係に興味を持っていましたので，今日初めて参加しました。平野と申します。

○宇佐美氏　宇佐美でございます。原田部長から先だってお誘いがございまして，おじゃまさせていただきました。水の環境をテーマに事業を進めていこうと思っていまして，今活動している最中でございます。ひとつよろしくお願いいたします。

○手代木氏　手代木と申します。豊平区から来ましたと言おうと思ったのですが，皆さん中身をおっしゃっていますので，私もやむを得ず言いますが，札幌市環境教育リーダーと，札幌市環境保全協議会に参加しております。

○柴田氏　柴田といいます。普段は細々とエゾシカの保護運動をやっております。この会議は２回目です。１回目は，エルプラザができる前の最初の回で，今日は２回目です。よろしく。
○清水氏　こんにちは。清水彩です。北海道大学の学生で，森林政策学という，森林とどうやってつき合っていくかを勉強しています。この懇談会は３回目か４回目くらいです。よろしくお願いします。
○松本氏　松本と申します。すぐ近くの環境サポートセンターに勤めています。勤めて５年ぐらいになります。よろしくお願いします。
○久保田氏　同じく環境サポートセンターを運営している環境財団の久保田と申します。よろしくお願いします。
○中瀬氏　中瀬と申します。生活クラブ生協で，環境のことをやっています。今は容リ法改正の運動をしたり，６月のキャンドルナイトに向けて活動をやっているところです。
○坂氏　生活クラブの組合員で，江別市出身で，現在豊平区に住んでいます，市議会議員をしております坂と申します。今日は午前中，久保田さんを見に，環境基本計画の審議会に行きまして，午後からは環境消防委員会で，夜は環境プラザということで。よろしくお願いします。ちょっと疲れています。
○山本氏　北海道環境財団の山本と申します。よろしくお願いします。
○木下氏　こんばんは。札幌地球村の木下と申します。環境と平和をテーマに，地域で一人一人が何をできるかということをしている団体です。私たちも，先程おっしゃられたように，容リ法の署名や，キャンドルナイト，ストップ・ザ・温暖化キャンペーンのWeb上環境家計簿も取り組んでいます。よろしくお願いいたします。
○丹羽氏　同じく札幌地球村の丹羽と申します。こんばんは。よろしくお願いします。
○西尾氏　札幌市環境プラザの職員の西尾と申します。よろしくお願いいたします。
○渡辺氏　同じく環境プラザ職員の渡辺と申します。よろしくお願いします。
○新谷氏　環境プラザに勤めさせていただいています新谷と申します。よろしくお願いします。
○黒沼氏　同じく黒沼と申します。お願いいたします。
○濱谷氏　環境プラザの濱谷です。今日はお集まりいただきましてありがとうございます。よい議論ができることを願っています。よろしくお願いします。
○宮田課長　どうもありがとうございました。
　それでは，いつものお約束なのですけれども，録音しているものですから，発言される方はマイクを使ってお話をしていただきたいと思います。
　それと，この懇談会は２１時を目処に終了したいと思いますので，その間，一生懸命発言してください。
　それと，今日のテーマですけれども，今日のテーマは，前回に引き続いてお話をしたいと思います。前回，このプラザの運営の委託についてということと，それを発展させて，

このプラザで市民が一体何をしたいのか，どのようなことができるのかについてお話を進めたいと思います。

まず，その議題に入る前に，つくるーんという会をこの懇談会でつくりました。ここに展示コーナーがあるのですけれども，展示をどうしたいかを話し合ったり，実際に手をかけて，工夫して展示してみようと。今，３回の話し合いと作業をやっています。その内容について御報告させていただきます。

○事務局　それでは，少しお時間をいただきまして，つくるーんの今までの経過を簡単に御報告いたします。

まず，つくるーん発足までの経過を簡単に御説明いたしますと，昨年９月にこのプラザがオープンいたしまして，展示物に関して，もう少し工夫が必要なのではないか，もう少しわかりやすい展示の方がいいのではないかという，様々な御意見をいただきました。それで，もう少し市民の方々，あるいは様々なアイデアを持っている方々の意見や御助力をいただきながら，展示物を発展させていこう，あるいは展示物に絡んだ企画，講座であるとかワークシートであるとか，そういったものを作成していこうと，つくるーんという名前のプロジェクトを立ち上げました。その第１回目の会が，昨年の１２月の末に開催されまして，２月の２１日に３回目を迎えています。参加人数としましてじゃ約１０名弱の方々に集まっていただいています。

今までに決定した方向といたしましては，２つのベクトルがあります。まずひとつ目が，来館者の方々，あるいは来館していただいた子供たちにもう少し展示物をよく見ていただくためのワークシート，あるいは考えてもらうためのワークシートをつくるという方向で進み始めています。

もうひとつが，市内の地図，あるいは市内の環境がもっとわかるような展示物がほしいのではないかという御意見が強くありまして，環境マップというのでしょうか，そういったものをつくりたい。ただマップをつくっただけでは何も情報が集まらないので，春休みなどに子供たちを集めながら，市内の，雪が溶けたばかりでまだ春が本格的に始まる前の様子をみんなで見に行って，それを地図に貼っていく，そういった企画を含めた環境マップづくりの２つの方向で今進んでおります。マップづくりは，期間的には３月２７日にスタートいたしまして，４月の２５日で完了と。最後の日には，集まった資料をみんなで見ながら，この花はこういうものなんだよねとか，見つけたエピソードなどを，みんなで交流会のような形で楽しく語りながら，札幌の環境，札幌もこんな春があるんだねとか，こんなところにこんなものがあるなんて知らなかったとなどの情報をみんなで共有したいと考えています。

以上です。

○宮田課長　どうもありがとうございます。

それでは次に，前回の懇談会のおさらいをしたいと思います。

○事務局　では私の方から，懇談会のおさらいの方を簡単にさせていただきます。

第１回懇談会では，懇談会の開催目的である，皆さんと市で共通認識を持ちたいという目的を説明いたしまして，その後，環境プラザの委託をメインテーマに懇談いたしました。

第２回懇談会では，皆さんと市とで共通認識を持ちたいということから，今，環境プラザで行っている事業についてや，環境局で進めようとしているストップ・ザ・温暖化キャンペーンについて，それらをメインテーマに懇談いたしました。

第３回懇談会では，皆さんと一緒に何かできないだろうかということから，環境プラザの展示物をつくりませんかという，先程御説明あったのですが，つくるーんというものを提案しまして，それに関して，それをメインテーマに懇談いたしました。

前回，第４回なのですが，開催前に，懇談会参加者の岡崎さんと新保さんの方から懇談会のお手伝いの申し出がありまして，準備の段階から一緒に行い，そして懇談会も一緒に進行していただきながら，第４回懇談会を行いました。実際に懇談された内容としましては，他の施設に関する委託の形態について話題に上がりまして，今回はその続きとして，他施設の委託に関する資料を用意して，委託について懇談しましょうというところで終了しました。また，懇談会に参加された皆さんと市とで共通認識を持てた部分がありました。市としても，委託をする時に，環境プラザでは，皆さんがやりたいことができるような仕組みをつくりたいと考えていまして，それは懇談会の参加者の皆さんも，それはもちろんのことだと思います。その部分で共通の認識が持てました。そこで，今回お話しするテーマとして，皆さんが環境プラザでやりたいこと，関わりあいたいことをテーマに懇談するということで，第４回を終了しています。

以上です。

○宮田課長　どうもありがとうございます。

前回出席していた方から，懇談会の内容について補足して説明するところはありますか。よろしいですか。では，一応前回までのおさらいということで御報告させていただきました。今の話にもありましたけれども，全国の類似の施設がどういった運営の形態をしているのか，お手元に資料を用意いたしましたので，それについて説明させていただきます。

○事務局　本日，皆様のお手元の方に，資料１と，資料２，資料３を御用意させていただきました。資料３につきましては，財団の久保田さんの方から御説明いただく形になります。市の方からは資料１と資料２について，簡単に御説明させていただきます。

資料１ですが，平成１４年度に環境省で全国のこういった施設の調査を，全国の自治体に行いました。今年度にこういった施設を括っている担当者の会議がございまして，その会議の中で配られた資料です。まだ平成１４年度の調査だったということで，私ども札幌市環境プラザについては１５年９月に開設予定だという書き方です。まだ札幌市環境プラザが条例として施行されていなかったものですから，仮称という形でこの中には記入されています。一応情報としては最新で，こういった施設が全国にあります。

施設の状況なのですが，この表をごらんいただいてもわかりますように，施設全体の面積も全国によって違います。私ども札幌市環境プラザについては，図書は同じ施設内にはないのですけれども，他施設では図書コーナーを持っていたり，研修室があったり，こういった会議室があったり，中には宿泊施設をお持ちになっている施設もあります。ただ，この調査の中では，どのような事業をしているかがわかりにくいのですが，全国の施設としてこのようなところがあると御理解いただけたらと思います。

資料２につきましては，私ども札幌市が政令都市ということもございますので，政令都市をピックアップいたしまして，どのような形を主体としているのか，運営方法，規模などを比較したものをまとめてみました。それについては，担当の西尾の方から説明させていただきます。

○事務局　資料２ですけれども，これは平成１３年度末に，環境プラザの展示物などを考えるにあたって，他施設の情報収集として，文書で照会をかけたことがございました。全国の都道府県と政令市に，同様の施設があるか，あればどのような規模，内容で，どのような事業をしているかについての照会をかけ，その回答の中で政令市について抜き出しました。また，北海道ですので，北海道と市内のリサイクルプラザについて加えまして，一覧表にしました。一部は２年前の情報ですが，最近電話等で確認した部分や，実際に京都と北九州で直接お話を聞いた部分も加えてあり，少々新旧入り交じった情報になっております。

左から順番に見ていきますと，施設については，ご覧のとおり環境の総合的な施設もあれば，ごみやリサイクルに特化した施設もあります。必要に応じて見ていこうと思いますが，政令市の中ではこのような施設があります。

規模についても様々で，単独の施設もあれば，ここのように複合施設の一部として立地しているところもあります。市役所の中の一室にコーナーを設けている，一部屋を設けているところもあります。

運営方法については，市が直営しているところもあれば，どこかの協会や団体などに運営を委託しているところもあります。委託をしているといっても，すべての業務を委託しているところもあれば，事業の一部を委託しているところもあり，その施設によって委託のあり方も様々であります。

委託先についても，聞いた限りでは，市の外郭団体の何々協会に委託しているところが目立った気がします。これについては，これからまた少しずつ情報を集めていきたいと思っています。

職員の数ですが，これも施設の規模や事業の多さによって様々です。多い施設もあれば少ないところもあります。委託といっても市の職員が出向で来ていたり，何らかの形で市との連携，パイプを維持しながら職員の配置を考えているようです。

事業についてですけれども，どの施設も事業内容はそれ程大差ないです。ここに書いてあるのも本当に代表的なもので，大雑把な書き方なのですけれども，北海道サポートセン

ターさんを例に見ますと，まず情報の発信地として，情報収集，発信。ホームページや情報誌をつくったり，そういった情報関係の業務や，環境学習系の講座，図書の貸出などです。それから，人づくりということで，人材を育成する研修を行ったり，その人材を活用するような事業をしています。市民活動団体を支援する事業，それから一般的な環境についての相談，それからここの研修室のようなスペースを持っている施設については，その貸館業務も行っています。大体やっている事業の大枠はどこの施設も変わらないと思います。

ただ，それらを市民が関わってやっているかどうかという点は話題になるかと思いました。右の方に書いてあるのですけれども，市民との関わりについては段階があると思うのです。企画や方針，事業の骨格を決める段階から関わっているのか，それとも，方針は既に定まっていて，個別の事業のところで関わっているのか，様々な段階があると思うのですが，方針や企画立案という部分と，事業の実施という，大きく２つに分けて書きました。知り得た情報についてだけなのですけれども，個別の事業の実施に市民が関わっている施設は結構ありました。北海道のサポートセンターですと，今，水俣展のボランティア募集をやっておりますし，体験エコ教室のボランティアを募集して，実際に講座を企画してやっていらっしゃいます。他の都市の施設についても，そういったボランティアを募集して事業を進めている例はあります。あと，大阪市ですけれども，農業体験をしてもらうという事業があるそうで，それについては委託契約で，毎年特定のＮＰＯにその事業を委託しているそうです。そういった関わり方もあります。

もっと根本から関わっている施設として京都があります。京都では事業運営委員会がありまして，その中に企業，市民団体，学識経験者，行政など，様々な立場の人が入り，そこで京エコロジーセンターの事業方針を決めて，またその下にワーキンググループがあって，市民の方が関与しているというお話を聞きました。これについては，こうなった土台，経緯があるそうです。皆さん御存じのCOP3（地球温暖化防止京都会議）が京都で行われたのですけれども，その時に，市民と連携して何か事業をやりましょうと，市民の方から様々な形の動きがあったそうです。この京都の施設も新しく，平成１４年度にできたのですけれども，施設のソフト的な部分の決定についても，そのCOP3の流れで入ってきたという経緯があるそうです。

あと，北海道サポートセンターの方でも，これから久保田さんから説明していただけると思うのですが，理事会という組織があって，その中に市民団体の方も入っていて，事業の方針，企画立案に関わっていらっしゃいます。

あと，下の方にリサイクルプラザにもコメントを書いたのですが，これは前提が市民の方の参画ではなくて，リサイクルプラザの職員と委託元である市との定例的な協議なので，これは市民の関わりという意味合いとは少し違います。

こう考えますと，今，札幌市の環境プラザで，このような懇談会の場を持って，市民の方とどういった連携ができるかという話をして決めていくプロセスはとても新しいことだ

と実感しております。

以上です。

○宮田課長　ありがとうございます。

続いて，環境サポートセンターの運営体制について，サポートセンターの久保田さんが資料を用意してくださいました。説明をお願いいたします。

○久保田氏　環境財団の久保田です。

環境財団は環境サポートセンターを運営している組織です。１０分ぐらいで説明をということなので，あまりたくさんのことはお話できないのですけれども，今日，私の方で用意した資料は，資料３と書いてあるＡ４の１枚紙と，私どものパンフレットと機関誌，それから一番新しい活動報告です。全員分の部数はないかもしれませんが，持ってきています。お持ちの方もいらっしゃると思いますが，御入用の方はぜひご覧になって，お持ちください。

パンフレットを見ていただくと，大体何をやっているところかがわかります。サポートセンターの施設というよりは，環境財団という組織があって，そこで活動の主な柱は，市民の環境保全活動の支援と，それから環境教育と広報啓発活動，その２本柱なのですけれども，それを環境サポートセンターを使って，あるいは使わないで別の形でやっているという，そういった団体です。

Ａ４版の方の紙を見ていただきたいです。私どもの運営体制についてですが，皆さんは環境プラザとどう違うかというところに御関心がおありかと思いましたので，それを対比する形でつくってきました。

上から順番に説明しますと，まず，設置している主体ですけれども，道のサポートセンターとよく言われるのですけれども，確かに道のお金で動いているのですが，形式的には道立の施設，道営の施設ではなくて，北海道環境財団の施設としてサポートセンターは設置されています。したがって，委託ではないのです。行政の委託ではなくて，私たち自身は補助金で，補助事業として運営しています。それは同じ役所の金ではあるのですけれども，少し意味が違います。

設置目的は読んでいただければ。書いてあるとおりです。

設置の経緯なのですけれども，ここのプラザは，審議会や，その前身の検討会議とか，いろいろとディスカッションを踏まえてつくられているわけなのですけれども，環境財団と環境サポートセンター，両方とも北海道の中でもんでつくった，環境保全活動への支援に関する基本構想があります。見たことのある方は多分ほとんどないかと思いますけれども。私もよく知りません。それに基づいて，環境サポートセンターという都市型の学習施設を札幌に１カ所つくる。それから，先程の施設の一覧表の中にもあったのですけれども，フィールドを使った学習施設として，当別に環境の村というものをつくると。その運営のために，民間団体として環境財団というのをつくると。その３本柱がその構想で書かれていたということです。それに基づいて，今から７年前，９７年の４月に，財団そのも

のを設立しました。その同じ年に環境サポートセンターをオープンしたと，そういった経緯があります。

では，設置して持っているのは財団ということなのですけれども，運営をしているのはだれか。これはここに書いてあるとおり，私たち環境財団が直接運営をしています。さらにどこかに委託するとか，そういうことではありません。ただ，財団がと言っても，財団自体が独立して経営されているわけではなくて，運営自体は北海道の補助事業として動いています。実は，先程お話しした構想をつくっていたころは，環境サポートセンターも道立の施設としてつくって，それで財団に委託をするという検討もされていたようです。どういった経緯でそうではなくなったのか，私はよく知らないのですけれども，そういった可能性もあったということです。

その運営をどうやっているかですが，意思決定を理事会で行います。これは環境サポートセンターという施設の運営のための組織ではなくて，環境財団そのものの理事会です。理事会というのは役員会ですね。企業で言えば役員会なのですけれども，サポートセンター運営のための特別の物事を決めるような仕組み，会議や組織は実はありません。運営委員会とか，そういったものはないのです。

ではどうやって外部の意見を反映するかということを先にお話ししてしまいますと，表の一番下にあるように，サポートセンターを含めて環境財団でやる事業は，基本的に理事会で議決をして決めるのです。その理事会で決めるに当たって，評議員会というものが別にありまして，そこの同意を必要とします。それは財団の規定でそう決めてあるのですけれども，毎年の事業計画や予算を，その理事会で経営者たちが決める前に，外部の人たちの集まりである評議員会というものを開いてお諮りすると。そこの意見を踏まえて，それを最終的に決定する。予算も事業計画も，個々に，いつどんな事業をやるとか，そういったことをここで決めるわけではないのですけれども，毎年毎年，大体どのような方向でやっていくかという大筋の方針ですとか，大きな変更を伴うような意思決定はすべてそういうプロセスでやっていきます。

では理事会や評議員会はどういった人がやっているかについてですが，この緑の冊子の３７ページに役員の名簿というのがあります。知らない方が多いですね。それをご覧いただくとおわかりだと思うのですけれども，大体外郭団体の理事会というのはこういった感じのメンバーが多いですね。非常に重苦しい感じの，あまり市民セクターの方がいるわけではないのですけれども，学識経験者と，さまざまな業界とか経済界などを代表する立場の人たちが理事についています。常勤の理事は専務理事１人だけです。理事長は辻井先生という有名な人ですけれども，この方は非常勤です。いつもいるわけではありません。実際にはいつもうちのビルにいて仕事をしているのですけれども，非常勤です。その他の理事は全員非常勤です。専務理事１人だけがいつもいると。それから，評議員というのは，その下に書いてありますけれども，これがその評議員会，外部の御意見を聞くために来ていただいているメンバーです。これも必ずしも市民団体とか企業の立場の人たちだけでは

ないのですけれども，理事会に比べるとある程度，例えばこういった場によく顔を出されるような方がいることがおわかりいただけるかと思います。

ちなみに職員の人数は，今，事務局１３人でして，右側に名簿が書いてありますけれども，環境サポートセンターには５人の職員の席があります。普段私は環境サポートセンターのビルの４階にいるのですけれども，そこの事務所に残り８人働いているという，そういう組織です。センターの仕事を５人の人間だけがしているということではなくて，Ａ４版の表の方にも書いたのですけれども，ほとんど１３人のメンバーがセンターの仕事に何らかの形で関わっています。センターに席を置いている職員も，センターの管理だけをやっている人間というのは，非常勤職員の２人ともう１人の３人ぐらいで，残りの人間は，例えば委託事業の大きいのを１本担当していたり，センター以外の仕事もかなりしています。

それから，表の下から２番目，活動財源なのですけれども，環境プラザはもちろん市の一般会計の予算なのですけれども，環境財団は北海道の補助金がほとんどです。他に，環境省のような法定機関から毎年それなりの額の委託事業を受けたり，それから，パンフレットには振込用紙を折り込んであるのですが，会費制度もございます。御意思のある方はぜひお願いできるとありがたいのですが。収入としては全体としては非常に小さい額なのですけれども，賛助会費をいただいています。それから，地球環境基金とか，そういった外部の助成金を私たち自身が使って事業をすることもあります。いつもいつもではないのですけれども。ただ，事業の部分はそういった委託事業とか，外から委託を受けたり，助成金を使ったりでいろいろとできるのですけれども，サポートセンターの運営や，あるいは我々自身の人件費や管理費，そういったものはほとんど全部北海道からもらっています。もらっているのですが，我々は道職員ではありませんし，形式的には民間の財団の人間として，あくまでも形式的にですけれども，財団としての意思決定のもとに動いているということです。

それで，この説明と，あとは表を見ていただくと，多分こちらのプラザと同じところと違うところというのはおわかりいただけると思います。その下に特徴としていくつか書いたのですけれども，今，説明の中で申し上げたように，環境サポートセンターは条例に基づいて設置される公立の施設ではないのです。形式的にはあくまでも民間団体である財団の施設で，しかもその施設の運営や財団事業そのもの，財団の存在そのものが道の一般施策による補助事業ということは，行政に関わっている方は意味がおわかりになるかと思うのですけれども，つまりいつでも道は事業撤退できるのです。一般の施策ですから，例えばお金がなくなってきたら，補助金を出すのをやめましょうと。そういう判断もあり得ます。そういった非常に不安定な部分もあります。

それから，２番目に書いたのですけれども，最初に申し上げたとおり，環境財団そのものが，主に民間による環境保全活動のお手伝いと，広報，環境マインドを世の中に広げていくような，そういった仕事の２本柱なのですけれども，非常に重要なのが，環境学習拠

点としてではなくて，活動支援をしていくと。道という行政，あるいは市役所も含めた，環境省や他の行政機関もそうなのですけれども，そこと民間，市民活動とか企業の間に入って，それをつないでいく，うまく動くように，板挟みになっていると言ってもいいと思うのですけれども，そういう役割を使命としては負っています。それをもちろん満度にできているわけでは全然ありません。できている部分もあるし，全くできていない分野もたくさんあります。環境サポートセンターは，環境学習をそこでやる場所ということではなくて，その活動支援の拠点としての意味を持っています。

それからもうひとつ，スタッフの話なのですけれども，一番下に書いてあります。１３人職員がいると申し上げたのですけれども，そのうちの１０人は財団の職員です。残りは道から派遣です。北海道から定期的に，２年交代くらいで派遣されてくる方と，道の退職者の方です。その人は今年で退職しまって，あとは補充がないと。つまり来年度は４月から１人職員が減って１２人になってしまいます。また，こういった施設は特徴的なこととして，外部からのボランティア，外部の方が直接関わっているところ以外では，非常に人の異動が少ないのです。サポートセンターで働いていた人間が，ある年，事務所に引っ込んだり，事務所の人間が出てきたりということはあるのですけれども，自分の意思で辞めない限り，ずっとその仕事を続けられますので，いればいる程ネットワークやノウハウがそのスタッフにたまっていくということでは非常に助かっています。

それで，外部の意見を事業や運営にどう反映していくかという話にも関わってくるのですけれども，評議員会では確かに様々な立場からアドバイスをいただけていますが，実際に個々の事業や運営の中で，スタッフが長い間いるといろいろと知り合いもできますから，ああしてください，こうしてくださいというリクエストを多くお受けするわけでして，それを事業の中で，あるいはセンターの運営で，直接利用者のリクエストに応えていこうという方向で反映させている面が強いと私は思っています。

非常に大雑把なのですけれども，このような運営体制でやっております。

時間がないのでこれでやめますけれども，わからないことがあったら御質問ください。

最後に，私がつくづく環境プラザは幸せだなと。生い立ちから運営体制に至るまで，そうそうたる活動をしておられる皆さんがこうやって関心を持って集まって支えようとしている。我々のサポートセンターができた時はそんなことは何もなかったのです。僕はサポートセンターができた最初からいるのですけれども，そもそも運営に関して外部から意見を聞くべきだという話もあまり盛り上がっていなかったのです。それがサポートセンターができた９７年と，ここのプラザができた２００２年の５年間の大きな変化で，例えばその間には，ＮＰＯの法律の制度ができたり，いろいろなことがあったと思うのですけれども，そこが随分きいているのだなと。僕たちの生い立ちは不幸で，あまり関心を持ってもらえないでもグレないでやっているつもりなのですけれども，私どもの方にも関心を持っていただけるとありがたいなというところで，お話を終わらせていただきます。

〇宮田課長　どうもありがとうございました。

この懇談会にあたりまして，事前に新保さんと岡崎さんと意見を交換する場を持たせていただきました。資料４は市民の目から見たプラザの運営についてまとめたものです。資料４を岡崎さんの方から説明していただきたいと思います。

○岡崎氏　岡崎です。

資料４の最初を見てください。この懇談会は，去年の３月に意見交換会があって，その後，懇談会をずっとやってきたのですけれども，どんなゴールを目指して話していいのかなかなかわからないということがあって。そういうことで，去年の１２月から，もう少しわかりやすくするための歩み寄りとして，お話を聞きに行くということをしてきたのです。それでもなかなかわからないということがあって，この間，２月２６日に，もう１度意見交換会という形で，札幌市の方と一緒にいろいろとお話をしていって，ようやく見えてきた，わかったものが，ここに書いてある表などです。これを見なくてももうわかっているという人もいると思うのですけれども，私がわかった範囲で皆さんにお知らせしていきたいと思っています。

プラザ運営の話をする時に，どうしても私たちは個別の事業のことをプラザ運営という見方をしてしまいますが，実はプラザ運営というのは，個別の事業ももちろんあるのだけれども，いろいろな施設管理や，事業を支えていくその下の部分のこともあるのだと，そういった全体を含めてプラザ運営ということがわかってすっきりしました。特にこの場所に参加している皆さんは，どちらかというと事業の方に関心がある方が多いのかな。プラザ運営自体，全体に関心を持っていらっしゃる方もあるのでしょうけれども，どちらかというと事業の方に重きが置かれているのかなという印象を受けたというのが１枚目の説明になります。

２枚目にいきます。これは今までの懇談会の中でもいろいろとお話があったのですけれども，現在の状況として，私たちには点線で囲んだ全体がプラザの事業だと見えていますが，実はプラザの事業の他に，本庁の所管ということで，環境教育の関連事業などが，プラザ事業のように見える形で行われているようです。

ここに，最初に黒丸で書きましたけれども，現在，外からはプラザ事業に見える事業の多くは本庁の事業である。よって，このままでは委託を考えている３年後にはこれらの事業はプラザ事業とはならない可能性がある。プラザ事業はごく限られたものになってしまい，市民の望むものとは乖離してしまう可能性が大きいと書きました。先程の原田部長のお話の中にもありましたけれども，京都や北九州だとソフト事業に５,０００～６,０００万円の予算がある。一方，この間プラザの予算はというお話がありました。７００万円か８００万円という予算だったと思うのですけれども，それだけでいきますと，左端に書いてある小さいプラザ事業だけということになるわけです。今，全体でいろいろなことをやっている事業は，よそから持ってきたものという形になります。

それで，この後のお話をここでこのように続けていくのかなと思いながら話を続けるのですけれども，ここのプラザ事業，小さくなってしまう可能性のものを少しずつぐいぐい

ぐいと大きめの形にしていくと，市民が望むものに近くなるのではないだろうかと。そうしていくためには，市民のニーズにあった事業，意義がある事業を見つけて，これがプラザ事業として必要なのだということを示していくことが必要だろうと。だれに示すかというと，市役所のお財布を握っている担当のところ，それから，そのお財布にお金を出す市民が，これは必要だとわかるようなことをしていかなくてはいけないのだろうと。

それからもうひとつは，プラザを中心として行われる事業は，たまたまここに来ている懇談会メンバーだけではなく，幅広い層のニーズに合致するものや，対象とするものである必要があるだろうと。

それから，この懇談会というのは，当面はこのまま行っていくというのが市の方針だそうです。

こういったことを勘案すると，今ここには環境関係に関心を持つ特に奇特な方たちが集まっておられると思うのですけれども，もう少し広い環境関係の方とか，子供さんとか，その親の方とか，それからもっと一般の方とか，いろいろな対象別，若干ニーズが違うと思いますので，そういった懇談会を開いていくことで，いろいろな多様な層のニーズや，必要な事業を探ることが可能になるだろうと考えています。

ただ単に懇談会に来てくださいと言っても，なかなか難しい。同時に，事業をだれがやるかということもありますから，その担い手の発掘も兼ねて，工夫や仕掛けが必要だろうと。そういった案内などの郵送費などは，市の方から支出は可能であるとお聞きしております。

懇談会に参加してもらってニーズや事業が見つかったとしても，それを実践していくための工夫や仕掛けも必要になってくるだろう。そういった時には，ワークショップ形式をとったりすることは可能で，その時のファシリテーターの費用などは市から支出できるというお話を聞いています。

それからもうひとつ。こういったことを踏まえて，ここに事業を話し合う場と運営を話し合う場の峻別と書きましたけれども，今の懇談会では，事業面の話はこんな事業があったらいいね，こんなことをやりたいねとすっと入っていけるけれども，運営全体，委託がどうとか，施設管理がどうという話になると，それは勘弁したいという人たちもいるかなと思うわけです。

そうすると，懇談会は，事業を話し合う場と，運営についてもう少しじっくり必要なことを話し合っていく場を別に設ける必要があるのではないだろうか。そうすることで，運営を話し合う場に参加を希望する人たちと市の担当者とで，運営していくに当たって検討していかなくてはいけない課題を整理するワークショップなどを実施して，課題の検討を進めていくことも可能だろうと考えています。

なぜこうなったかというと，先程久保田さんのレジュメにあったのですけれども，結局，プラザの運営の意思決定機関は市にあるわけです。だから，どういう運営にしていくかは市が決めなくてはいけない。だけれども，その中に市民の意見をどう反映させていく

かとを考えると，決める市と望む市民とで話し合う場が必要だろうと。そういった場を設けることによって，市のプラザ運営の定義や，これから先を担っていくかもしれない運営協議会の案ができる時から，市民の意見が反映されていく可能性が大きい。絶対あるとは言いませんけれども，可能性が大きいのではないだろうかという御提案になるのかなと思うのですが，みんながこんなことをやりたいという事業をみんなで考える場と，それから運営自体を考える場をそろそろ分けていってはどうかなというのがひとつ御提案と，それから，事業について，ここだけでなくてもっと広い範囲のみんなの意見を聞くような機会を設けていく仕掛けをつくっていく時に，だれかがやはり言い出さないと，ぽっとできるわけでないですから，それを一緒に考えていくお仲間がいたらいいかなという御提案をさせていただきたいと思いました。

うまく話せたかどうかわからないので，わからなかったらどんどん聞いてください。

以上です。

○宮田課長　どうもありがとうございました。

非常にわかりやすくまとめていただいたと思います。

委託の話は，運営の話も含めて少し重たい話なので，いきなりここでいかがかと聞いても答えづらいかと思うのですが，資料について何か御質問ございますか。よろしいですか。

岡崎さんの資料の中で，３ページ目に書いてございますけれども，事業の面の話には参加できるが，運営全体となると少し重すぎるということで，今日のテーマであります，このプラザを使って何をしたいのか，何ができるのかというのは，まさしくこの事業の面のお話と全く同じ言葉と考えていただいて結構です。ここのプラザでどういう事業をやっていくのか，やりたいのかということは，今日のメインのテーマですので，できいきなりその話に入っていきたいと思うのですけれども，いろいろやりたいことあると思うのですよね。何か御提案なり御意見ございませんか。

板書を，新保さん，またお願いできますか。

○新保氏　前回，私，板書をさせていただいたのですけれども，特にどなたもいなければ，よろしいですか。

○宮田課長　南さん，何か口火を切っていただけませんか。

○南氏　私どもの札幌消費者協会では，サタデーテーリングの日に，子供たちがここに寄った時に，何かここでワークショップのようなものを，リサイクル体験でも何でもいいのですけれども，軽く体験をしてスタンプをもらって帰ると。その体験した結果が，学校に行って，あそこへ行ったらこんなものができるんだよと。じゃあ僕も足を運んでみようかなとつながっていけばいいかなと思っています。具体的には，牛乳パックでできるぶんぶんゴマなんかをつくってもらうところから始めてみようと思っています。それが将来的には，お金の話や労働の話などにつながるようになればと思っています。ただ，まだ考えている段階で，具体的には試行錯誤しながらやるしかないかなと。ごめんなさい，参考に

なるかどうかわからないのですけれども。どうぞ他の方。
○岡崎氏　質問していいですか。今のお金とか労働というのをもう少し具体的に説明していただきたいなと思いました。
○南氏　国民生活センターの消費生活フォーラムの中で，福岡のどこかの団体の方が，実際に１,０００人規模ぐらいでなさったらしいのですが，入り口でいらっしゃいませとエコのお金を渡します。それは牛乳パックで丸くつくってもいいのです。あなたはそのコインで，ここで販売している何かをお買いになりますか，お買いになったらそのお金をくださいと。あなたはそれでさようならかもしれないし，ここで労働していくこともできます。コマをつくられましたので，ではそのコマ分のお金を労働分として差し上げますと。あなたはそれを貯金してもいいし，他の仕事がしたければハローワークのようなコーナーを設けておいて，僕はこういったリサイクルの体験をしてみたいなどと相談する。次々つなげるというのかしら，福岡では子供エコランドという，銀行や役場，スーパー，問屋さん，織物工場，プリント工場，紙すき屋さん，アクセサリー屋さんなどがたくさんあって，各職場で３０分お仕事をしたら，そこで労賃としてお金がもらえて，銀行に貯金したり，また銀行に行くだけで貯金の利子としてお金が増えたり，それをどのように買い物につなげるか，あるいは自分の貯金として持っているとか，その広がりはいろいろあるのでしょうけれども，このように労働がお金に変わって，それを預金したら利子がつくとか，いろいろな広がりが考えられるというものらしいのです。ただ，実際にやっていませんので，まず，労働したら労働したものも持ち帰るけれども，自分でお金を得るといいますか，そういった体験がひとつできます。最初の段階ではそれで帰っていただいて，もし機会があったら，次に私たちがまたサタデーテーリングで何かやった時に，そのお金はまた使えますと。私どもも何かそういうワークショップを続けていくという形で広げていきたいなと思っています。思っているだけです。説明がきちんとできていないかもしれませんけれども。
○岡崎氏　十分わかりました。
○参加者(男性)　イメージ的には，その施設の中で使える地域通貨ですか。
○南氏　そうです。そういった体験を通じて，リサイクルとお金の価値とか，そういうものも一緒にできたらという話ではあるようです。
○事務局　環境プラザで昨年の１０月から今年の３月までサタデーテーリングの後期の部分を担っています。その中で，私ども本庁の方に環境対策課というところがあるのですけれども，そこで化学物質についてリスクコミュニケーションということを図ろうとしている事業があり，対策課で月に１回だったのですけれども，子供たちに化学物質ということを教える，知ってもらう，化学物質が自分たちの生活どう関わっていて，その防止，未然防止ということが大きくなってくると思うのですけれども，そういうことを将来子供たちが発言できたり，地域づくりの中で，リスクというのがどういうことなのかのとっかかりとして，すごろくゲームをやりました。すごろくのコマ自体がプロピレンのようにまさし

く化学物質で，名前だけだとわからないので，例えば冷蔵庫で使われている物質であるとか，サッカーボールで使われている物質であるなどと，身のまわりのものを化学物質で分解していって，そのサッカーボールをつくるためには何を集めたらできるだろうかということを学びます。それを毎月１回やっていました。それは南さんがおっしゃったように，化学物質そのものを教えるのはとても難しいのですけれども，将来に向かって，そういったとっかかりをつくっていこうと。本庁ではなかなか子供たちが集まらないということがあったので，サタデーテーリングを活用して，プラザで月１回やりました。プラザが場所を提供して，そういうアイデアを本庁の対策課の方で持ってきて，職員が対応したというような例があります。

○南氏　今日，宮田課長さんとお話させていただいていて，雑談でそのすごろくが出て，私どももすごろくでちょっとやってみないかとたまたま出たのです。私の思いつきなのですが，ごみに偏った話ですけれども，例えばＢ４の紙１枚で，自分で簡単に十も転がせば上がるようなすごろくでもいいと思うのです。自分の嫌いなニンジンは食べられない，ホウレンソウは食べられるとか，ではホウレンソウを食べられる時は四つ進んで，すぐ上がっていいとか，ニンジンが食べられないから，では２つ戻ってくださいとか，自分で書くのです。子供たちが自分で書いて，自分がいいようにつくる。すごろくは，サイコロは１でも３でも，とまったコマで３つ進むとか，２つ戻るなどで進むと思うのです。子どもが書いた食のことやごみの問題，他にもいろいろなことを書いたものを４つぐらい合わせたら，また別なおもしろいすごろくができるかなと雑談の中で話していたのです。ですから，例えばそういったこともできたら，子供自身が考えて，おもしろいものをつくるのではないかなという発想をしました。

○丹羽氏　丹羽です。

今聞いていて，楽しみながらというのがとてもキーワードだなと思ったのと，全部いいところ取りができるのかなという気がしています。例えば，このプラザで市民が何をしたいかという事業，単体を考えていくのではなくて，それに向けての何か一種のお祭り，市民にまずここに足を運んでもらって，例えばいろいろな団体やそれから市の人たちと交流をすると，そこで何かがきっと生まれてくるような気がするのです。今の南さんの，そういうことを子供たちが積極的にやっていくことで，子供たちがここにもっと関わっていきたいと思えた時に，自分たちもやりごたえがあるし，きっと市の職員の方もやりごたえがあるのではないかなと思います。ここの起爆剤にするような，ひとつのお祭り，イベントを，みんなが連携して考えていくのもいいのではないかなと，そう思いました。

○宮田課長　今日，皆さんおとなしいですね。何をしたいか，思いを話せる場ですので，御発言をお願いしたいのですが，澤田さん，自己紹介を兼ねて，御意見をお願いします。

○澤田氏　環境教育リーダーという制度がありまして，その一員で，澤田と申します。遅れましてどうもすみません。

やはりここを活用することについてですが，少なくとも僕は，毎日はできませんね。で

すから，休みだとか，それから土，日，祝日です。今，南さんがおっしゃったようなことなどを休日にやるという今年かできないかなと。場所は，ここは会議に使ったり様々なことで活用させてもらいたいなどと，らそんなことを考えますね。青少年科学館というところがありまして，そこでもっと広く，科学のことをいろいろとやっているわけです。ですから，漠然としていますけれども，ウィークデーにやるのか，土，日にやるのか，休みにやるのか，日程を決めたら，必ず環境に関して何かやっている，そんな場であったらいいなと，こう思います。

○中瀬氏　すみません，事業のイメージが浮かばなくて，少しピントが外れているかもしれないのですけれども。今日，キャンドルナイトを他のグループの方もやっていらっしゃると知りました。去年，生活クラブで全国の方から呼びかけられて，６月２１日の夏至の日に，電気を消してスローな夜をということで，１００万人のキャンドルナイトという企画をやったのです。生活クラブだけでひっそりとやったので，全然広がりがなかったのです。今年は大きな，大きく実行委員会などでぱーっとやるのでなくて，何かのコンサートなどではなくて，もっといろいろなところにぽつぽつと，いろいろな人が，いろいろなグループがそれぞれの思いで，自分のスローな夜，キャンドルナイトをつくっていくようなものを，市内のいろいろなところでできる起爆剤というか，働きかけができたらいいなとは思っていました。しかし，いざそれをやろうとすると，どのように働きかけたらいいかがわからなくて，例えば大通の両側にある広告塔の電気を全部消してもらおうとか，レストランに，この日はロウソクにしてもらって，恋人たちのキャンドルナイトのようなキャンペーンをやってもらおうとか，それぞれの家でテレビを消して絵本を読んだり，ゆっくりする時間を持ってもらおうとか，そういったことは浮かぶのですが，それを広げていくという方法が浮かばなかったのです。この場で何か企画があってもいいですし，それが，うちではこんなことをやっているよとか，ここではこんなことをやっているという情報交換が，派手ではないけれども，本当に市民ができる二酸化炭素削減などの活動になる。ここが何かできないかなと思ったのですけれども。とりとめもないのですけれども。

○澤田氏　僕はプラザの屋上を見せてもらったのだけれども，これはとてもできないなと，がっかりしたことがあるのです。

○岡崎氏　事業には環境プラザを使った事業というのがあると思うのですが，環境プラザを使うというのは，施設を使うというだけでなくて，いろいろな機能があると思うのです。ホームページを持っていらっしゃるとか，ニュースも出しておられるだろうし，何かやる時はここに集まっても別にいいですけれども，他のところがやるようなことでも，環境プラザの事業と考えることはできると思うわけなのです。先程環境マップをつくろうということをおっしゃっていましたね。多分あれは池田さんが発案者の中に入っているのかなと思ったのですけれども，それも，ここでやっていたら環境マップなんかできないから，やはり札幌市内のいろいろなところを歩く。だけれどもプラザの事業になるわけですよね。ですから，ここの中だけで何かやろうではなくて，ここをうまく使いながら，この

場所も，それからそれ以外の機能もうまく使いながらできる事業をみんなで考えていくというように，統一見解があった方が，話は広がっていくのかなと思いました。
○澤田氏　もちろんそのとおりですね。しかし，その核がどこにあるのか。ある時には円山にある，ある時には藻岩にある，そういうことではなくて，やはりここに核がある。
○事務局　中瀬さんからお話をいただいて，岡崎さんも補足していただいたのですけれども，プラザの事業のひとつとして皆さんで認識を持てたらいいなと思ったのですが，例えば先程お話の中に，自分たちのグループだけだと，どう働きかけていったらいいのか，広げていったらいいのかがわからないとありました。むしろ環境プラザが，それを広げたり，つなげたり，情報交換をしたりする機能を持たなくてはいけないと思っているのですけれども，プラザの事業としてきちんと確立されていけば，今のようなお話は，ある部分，解消していくし，広げていける。これは本当にプラザが持たなくてはいけない機能のひとつなのかなと思うのです。今，岡崎さんの方からホームページの話を言っていただきました。それを積み重ねることもきっと必要だと思っています。今，プラザにそれができるかというと，情報がないことがありますし，少しはネットワークがあってつなげていけるのだけれども，そこにつなげるものがまだないので，それをまた広げていく，積み重ねていくということも，プラザの事業という形にするプロセスで必要なことになるのかなと今お聞きしていて思いました。
○宮田課長　何がしたいのか，一番わかりそうでわかりづらい。具体的に今，こんなコマを回してこういった事業をやろう，すごろくをやろうと，具体的なそういった事業の発想，思いつきでも結構ですし，総論的に，プラザからこういった機能で発信していくべきだという総論的なお話でもいいと思うのです。多く出てくると全体がうまくまとまるというのですか，ひとつの方向性が見えてくると思うものですから，あえて限定しませんので，思いつきのようなお話でも結構ですので，御発言をお願いできればと思います。いかがですか。
○木下氏　木下です。
　ここを使って，本当にいろいろなことをしていって，結果，札幌が元気になるような，いろいろな仕掛けの発信基地，作戦基地，そのようになるといいなと思って，先程丹羽さんがお祭りみたいなイベントと言ったり，キャンドルナイトと言ったり，いろいろなそういったことを，市民の，例えば子供のチームが集まってとか，環境畑の人たちだけでなくて，いろいろな人たちが楽しみながらその企画をして，何かひとつつくっていくという，そういったことをたくさんここでしていけたらいいのではないかと思います。
　今，札幌がもっと元気に，みんながわくわくするといいなと思っていることのひとつに，４月にアースデイがあるのですけれども，私が知っている限りでは，残念なことに札幌で特にアースデイのイベントはないですよね。だから，そんな何かのきっかけにうまく市民たちがのってやっていける，その母体をここでつくって，それをみんなで考えてやっていけるような役割をここが持てたら，何かしたいと思っている個人が集まって，みんな

でひとつの力になって，形にしていくことができるのではないかと思います。
○宮田課長　実はアースデイについて。岡崎さん，何か。
○岡崎氏　木下さん聞いていたのですか，丹羽さん聞いていたのですかという感じで，驚いていたのですけれども，先程お話しした中に，みんながどんなことをしたいかを知るために，先程おっしゃった発信基地とか作戦基地とかにするにしても，来てもらわなかったらまず無理だろうと。それで，まずアースデイかなと思ったのです。北海道でどうしてできていないかというと，その頃はまだ寒いから，みんなで集まるのはなかなか無理かなと。せいぜい６月ぐらいからかなというのがあって，おそらくなかなかアースデイに行かないと思うのですけれども，私と新保さんと宮田さんとか，その辺でいろいろ話をしていた中では，アースデイの日に，まずはプラザでどんなことができるかみんなで話し合おう，ただそう言うとみんな来ないだろうから，もう少しみんなが来そうなイベントを企画して，来たら，言うまで帰れないようにしてはどうだろうかと。歩いてきて，ここに入って，がちゃんとドアが閉まって，一言言ってもらってから帰すとか，そんな感じでもいいから，何かしませんかと。子供や一般人向けはそのように。その辺の時間に来れそうな人はそれ。それ以外のパターンの場合は，また違う日，５月だとバードウィークが，６月には環境月間があるので，いろいろなことを事業自体にしながら，事業のニーズを拾っていくという形で，連続的に何かやっていくことを一緒に考えませんかという御提案をしようかなと思っていたのです。いいですよという方がいたら，やったという感じです。嫌ですとか，みんな何も言わなかったら，私と新保さんでしくしくと何かやらなくてはいけないなと思っていました。それで，お話が出たので，本当に聞いていたのではないだろうかと思ったということです。
　以上です。
○宮田課長　提案が出てきましたけれども，何か御意見ございませんか。清水さん，どうですか。
○清水氏　先週末に，ちょうどアースデイをいろいろな地域でやれたらおもしろいのにという話をしていたところだったので，ぱっと目を輝かせたのですけれども。当別の環境の村で，去年，アースデイでお祭りをやった時に，環境畑と言われるような人たちだけではなくて，いろいろな人が地球というものに関心を持ちながら，いろいろな切り口で関わっていました。だからお祭りっぽくなって，みんながひとつのことを考えられた。そこからまた何か新しいネットワークが広がって，今に続いているから，このようにもっともっと，当別だけではなくていろいろなところでやれたら，もっといろいろな人が考えられる，話し合える。こんな会まで立てるのはもしかしたら難しいかもしれないけれども，考えれる土台づくりがいろいろな地域，地域でできるのかなという話をしていました。だから，札幌でもぜひこのプラザがいい形で関われたらいいのにと思っています。
○宮田課長　ありがとうございます。
○澤田氏　皆さん，対象はやはり子供を主として考えているのでしょうかね。どうです

か。
○参加者(女性)　そんなことはないです。
○澤田氏　そうですか。であれば，いろいろな意見，今まで出てきた案を，やはり年間のスケジュールを考えてやったらどうでしょうか。１年間のスケジュールがこうだと，市の人たちにもアピールできますよね。この月はアースデイのことをやるだとか。ですから，もっと具体的な意見をどんどん出して，そのプランを立てるということでいいのではないですか。１年間の初めにそういうプランを立てて，そしてやる。
○岡崎氏　異議をとなえていいですか。
○澤田氏　どうぞ。僕はそんなに考えていませんから，行き当たりばったりですから。
○岡崎氏　１年間の年間スケジュールを立てるということですが，私は他の団体に所属していますが，私がいつも立てて，非常に苦しい思いをしています。というのは，年間スケジュールを最初に立てる時，みんな好き勝手なことを言うのです。あれをやる，これをやると。一体だれがやるか。結局みんな忙しいと言ってやらなくて，責任感の強い私が最後に苦しい思いをしているのが現実なわけです。ここにしても，今ここでそういうことを言ってしまったら，一体だれがやるのか，だれがやりたいのか，やってほしいのかと考えないままに進んでいくのではないかととても懸念しているわけなのです。ですから，先程お話があったように，こんなことがしたい，してほしいということを，まずいろいろなことをやりながら見つけていって，その中から，こんなことができるね，あんなことができるねとやっていく。それで１年ぐらいやると，来年の頭あたりには１年間の年間スケジュールができるのかなと。だから今年度は，１年間の年間スケジュールを立てるための準備期間，お試し期間のようなものかなと思うのですが，いかがなものでしょう。
○澤田氏　暫定のスケジュールはどうか。それから，これをやったらいいね，あれをやったらいいねと，無責任に言わないこと。自分がやると言ってやらなかったら，今のようなことが起こります。これをやりたいと言ったら，自分がやると，絶えずそういうことを考えながら意見を言うことですね。
○岡崎氏　それだとみんな意見が言えないわけです。
○澤田氏　先程言われたのは，いいなと思うし，やはりぜひと思います。アースデイにするべきじゃないですか，何月か知らないけれども。
○参加者(女性)　４月の２２日です。
○澤田氏　それは４月中ずっと地球に関するイベントをやるのだと。それで，僕は思いつきで言ったのだけれども，土，日は必ず４月はこういうことに関することを環境プラザで発信するのだと。
○参加者(女性)　では澤田さんが。
○澤田氏　いやいや，僕はアースデイとは言っていませんよ。だけどいいアイデアだと。全部なんて言わない。できそうなものは。
○清水氏　東京でアースデイを盛り上げようとしているネットワークがあって，私はそこ

のＭＬに入っています。おもしろいなと思って，いつもＭＬを読んでいるのですけれども，アースデイは１日だけだけれども，そこでは本当に様々な団体が，ではここの１週間とか，私たちはここの１カ月間というように自分たちで設定して，自分たちはこれをやるから，興味ある人は来てね，協力してくれる人は来てねと，いろいろ関連しあって，いろいろなところでやっています。東京だけでもできているから，札幌でもできるかなと思うのですけれどもね。

○木下氏　木下です。

　できる限り，今，清水さんが言ったように，自然発生的にできていったものが，ひとつ実績としてあった後に，それを踏まえてやっていくという形が私もいいのではないかと思います。それも，全部こちらが決めてしまったものにみんな集まってくださいというよりも，やはりある程度母体だけをここで用意しておいてあげて，本当に自分が責任を持ってできることを，それぞれが自分の責任でやっていく，そのネットワークの中心になっていく。そんな役割分担をしていった時に，市民たちがみんな喜んで関わっていくのではないかなと思うので，できる限りゆったりとした，余裕の，決め事ではない，みんなが自然に自分の責任でつくっていけるような，そんなことをどんどんしていけたらいいなと思います。

○丹羽氏　私も，今岡崎さんが言われたことや，木下さんが言われたことの方がいいと思います。私たちが楽しいかどうかというよりも，参加してくれた市民の人たちが，ここはどんな場なのだろうと中途半端になってしまうよりも，もっとそれぞれの個人なり団体が，自分が普段やっていることを生き生きとやって，そこに市民が，関心のある人たちがどんどん集まっていくという，ものすごい求心力をそれぞれが持つという形の方が，こういったものはきっとインパクトが強い。よく展示会とかに行くと，何か妙にそれぞれを打ち消しあってしまって，どんな場なのかがわからないことが結構あったりするのですけれども，本当に場所はここだけではなくて，今言われたように，１週間別の場所，１カ月間，違うところでこんなイベントをやっているよと，そんな情報発信もできたりとか，その情報がここに来ればある。それぞれに拠点がある人たちがここに集って，４月２２日のアースデイに何かをやってみようではないか，そこから発生していく，広がりを持たせる何かがあるといいなと，今聞いていて感じました。

○宮田課長　サポートセンターの松本さん，いかがですか，御発言いただけませんか。

○松本氏　とても答えにくいというか，自分の仕事と混ざってしまって。久保田のようにセンターの説明であればできるのですけれども。一市民として答えていいのか，センターの職員として答えていいのか，非常に迷います。仕事は抜きにして一市民として考えると，僕はサポートセンターで働いていますが，やはりまだ環境の意識を持っている人は少ないと思うのです。僕の父，母なんて，例えばイベントがあっても絶対来ない。本当はそこをどうするかが将来的には大切かなと思うのです。こういった企画を立てる時もそうですけれども，会社の中で，ではだれを相手にするのかをある程度皆さんの中でひとつでも

ふたつでも決めたらいいと思うのです。それを試してやってみるということ。例えば先程言われたように，子供だったら子供，大人だったら大人。大人もいろいろだと思いますが，仕事でも，皆さん，会社の中で意見をぶつけ合っている。これはだれに向かってやっているのだと。その対象に向かってやっていないのだけれども，違う人が来るとか。そういうこともあります。来て悪いわけではないですよ。この辺の人たちを期待して，この辺に興味のある人たちのために，近い分野のお話をいろいろする。少し話がずれたのですけれども，事業の進め方も，ひとつ話がまとまっていくのではないかなと感じました。

○宮田課長　どうもありがとうございました。

○山本氏　環境財団の山本です。一市民として。

一市民としてサポートセンターで働いていて思うのですけれども，みんな，僕もそうですが，おもしろいことはおもしろいで，すごく楽しくやればいいと思うのです。けれども，違う関心を持っている人に結構冷たかったり，関心がなかったりします。こんなに楽しいことをわからなかったと。それは人それぞれいろいろあると思いますけれども，何か広がりがない気がしていて。ライジング・サンという石狩のイベントで，若い人たちが中心となってゴミの分別をすすめるezorockの活動とか，ああいう切り口ってすごい好きで，この間，清水さんもいましたね，環境教育ミーティングに行った時，ピアノでいろいろ伝えるということをしていました。それは音楽やそういったものが好きな人を対象に，何かひとつでもふたつでも取り込んでいくと，僕みたいな癖のある人間でもおもしろそうと思えるのではないかと思います。

○池田氏　自己紹介もまだなので，自己紹介を兼ねて。このまま盗み聞きで終われるかなと思ったのですけれども。環境省の出先の環境対策調査官事務所に勤めています池田と申します。

何を話せばいいのでしょう。一市民として話すのですか。

事業もいいのですけれども，とりあえず，ここに来る人は少ない気がします。まず日常ですね。やはり環境は皆さんに関係あることかなと思いますので，とりあえず市民活動サポートセンターに来た活動家の方が少し寄ってみようかなと思うようなネタが，例えば週替わりなり月替わりであれば，人が人を呼ぶのではないでしょうか。不法投棄の中では，ごみがごみを呼ぶと言っているのですけれども。ごみは別にしても，やはり人というのは人がいるところに集まってくるのかなと。行列のできる店ではないのですけれども，週替わり，来るたびにネタが違うと，活動家の方はそういったことに敏感な方，情報を欲している方が多いのではないかなと思います。環境に遠い分野であっても，何となくつなげて展示するとか，そういったようなことで，リピーターを増やしていくことがひとつかなと。思い切り事業から逸れてしまったのですけれども，そんなことを感じております。

○宮田課長　ありがとうございます。そうですね，今日，御発言があまりないので，とりあえず今日来られた方，柴田さん，いかがですか。御発言お願いできますか。

○柴田氏　私は，先程言いましたけれども，エゾシカなどの保護をやっています。なの

で，あまり札幌市の中ではそういった意味で活動してないのですけれども，札幌市が現在も抱えている駅前歩行空間や，創成川アンダーパス，そういったワークショップなどに相当出席したのです。私が現在，環境絡みとは必ずしも言えないのですけれども，関心を持っていることを単発的に言いますと，例えば，先程出ましたけれども，地域通貨。地域通貨というのは，経済の問題ではなくて，これはまさに環境の問題なのです。地域通貨は，一時期盛り上がったのですけれども，最近少し停滞しているというか，実際やっているところも維持するのが大変ですし，広がりがないのです。数十人でやっているところがほとんどです。ですから，そのあたりをもう少し，どう現実の生活の中と関連させていくか，１回や２回のシンポジウムや何かで済むような問題ではないですから，それをかなり系統的に何年かやっていくとか。北海道環境サポートセンターの方ではある程度関心を持ってやっているかなという気もするのですけれども。自転車の問題ですね。自転車もやはり環境の問題であると同時に，札幌市においては山程問題があるわけです。これもサイクリングが好きな人だけの話ではなくて，交通問題等も含めて，札幌市の施策などは，私などはかなり批判的なのですけれども，そういうことを含めて，もう少し広がりを持って，あるいは全道的な広がりを持ったような視点で何か取り組めないかと。

　あと，私はナナカマドの会という団体に登録しています。あいまいな会を届けています。主観的には，都市の緑とか都市の自然をどうするかという視点でやろうと思っているのですけれども，例えば先程環境マップなどということも出ましたけれども，先程申しました創成川の問題とか，駅前歩行空間の問題にも絡むのですけれども，街路樹がその２つの事業で全部だめになるのです。そういった街路樹の問題，札幌市全体がどうなっているかというと，これは地図があるのです。緑化推進センターか何かへ行くと，私，別のことで行った時にくれたので，持っているのですけれども，その樹種，植えてある木が，私としてはかなり変なものが植えてあるなと。管理に都合のいいものを優先して，北海道に何でこんな木を植えるのだという木も植えてあるのです。そのようなことを含めた単発的な，関心のあることを言いました。

○宮田課長　隣の手代木さん，お願いできますか。

○手代木氏　すみません，勉強させていただきに来ているので，発言する内容というのはないのですが，最初のうちは少しわかっているつもりでいたのですけれども，だんだんだんだんわからなくなって，今は皆さんのおっしゃることの３分の１ぐらいしか理解できないのです。というのは，どうしてかというと，人をどうやって集めるかという話になっていますよね。何をということがさっぱり私に見えてこないのです。何をやるからどうやって集めるかとか，興味を持って集まってくるという話にならないで，何かおもしろいこと，滑稽なこと，あるいは珍しいことをやって，集まってきたところで目的のものをやろうと。そういうやり方もないわけではないですけれども，私のできることはひとつもないと思っているのです。私は今，環境教育リーダーを引き受けて，また引き受けますという返事を出したのですけれども，本当に私のできることはあるのかなと。皆さんのお話を聞

いていて，そう思ってきたのです。というのは，私どものジャンルは，動物，植物が，この地球上で，札幌の行政区の中で，どうなっているか。そしてそれがいわゆる原始の時代の状態ができるだけ維持されていく形で，近頃はやりの言葉でいうとビオトープというのですけれども，ビオトープが間違った用い方をされて非常に困っておりますけれども，いわゆる原始の時代の状態ですね。だから，こちらの方がおっしゃったように，何でこんな街路樹があるのだという，これはやはりビオトープ違いですよね。やはり原始の時代に生えていた木を，街路樹に適したものを植えるのが，本当の札幌市の街路樹のつくり方だと私は思っています。そのような方向で，今度環境保全委員会の提言もまとめたいと考えているのですけれども，そのようなことで，本当にここでまずできることは一体何かということをやはり考えていく必要があると思うのです。エコマネーもいいし，何でもいいのです。私，エコマネーが環境の問題に関係があると，もちろんわかりますけれども，どうしてかということはまだすっかり腑に落ちないのです。そういったことを教えていただきたいと思います。と同時に，ここにある展示物も，このままではあるだけなのですよね。だからこれに命を吹き込むことが必要なのです。その命を吹き込む時に，先程黒沼さんも言っていたけれども，ワークシートのようなもので，何とか出してやっていかなければと考えたりもするわけです。

私の言いたいことは，何かせっかくできたものを活用しないで，何か別なものを持ってきて，そこでやりたいと，集まるとそんな意見になるのです。つくるーんでもそうなります。ですから，やはりこの環境プラザの能力を最大限に引き出すような，そんな中身の議論であって，そしてそんな活動であってほしいなと思います。そうでないと，私はやはり環境教育リーダーはもうこれでできないなと思います。

以上です。

○久保田氏　お聞きして思ったのですけれども，確かにここのプラザができて，このように集まって，それでここを使ってあなたは何をしたいですか，何ができますかと聞かれると，やはり先程の話が大変おもしろかったのですけれども，自分に責任を持ってできるのはどこまでかとみんな考え込んでしまうと思うのです。特に仕事を抱えていて，あいた時間でやるとなると，一気にうーんとしぼんでしまうのですけれども，市民と施設の関わり方というのは，市民として責任を持って何かプロジェクトに関わる，そんな主体的に関わるやり方だけではなくて，市民，あるいは利用者として，このプラザがどんな施設であってほしいか，どういうところであってほしいかということをもっと望んでいいのではないかと思うのですよね。例えば，私，仕事と関係なく，個人として，では何かそういうのがあるかというイメージを２つぐらい考えていたことがあるのですけれども，ひとつは，例えばここは市の施設ですから，仮に委託をされたとしても，それは市の施設であることには違いないのですよね，ＮＰＯや民間が受けたとしても。つまり，やはり市の政策の一環としてやられていることなのですよね。今，審議会で環境基本計画の議論をしていますけれども，市の政策が必ずしも市民に十分理解されているとは，知られているとは思えない

のです。別に市が特にできていないわけではなくて，道なんかもっと理解されていないでしょうし，国だって同じなのですけれども，せっかくこういった施設ができたから，ショールームとして，政策を市民に周知する，ただ貼り出して周知するのではなくて，コミュニケーションをとるような，そんな場であってほしいなと，例えば私は個人として願うのです。

もうひとつ，子供を対象にした事業を意識してやっていかれるというお話があって，展示も現にそれを考えておられると思うのです。今日，環境学習施設のリストが資料で配られていましたが，私も会議で道外へ行った時になるべく都市型の施設を見てくるようにしていて，主立ったところは実は結構見たことがあるのですけれども，正直，行政がやっている施設で，これはおもしろいなというところはあまりないのですよね。２つ程，僕自身これはいいという施設があるのですけれども，それは，一つは民間なのですけれども，御存じの方いるかもしれませんが，横浜に東京ガスが環境エネルギー館，ワンダーシップという名前の大きなテーマ館をつくっていまして，そこは子供を明確に意識した展示とアトラクション，施設はばかでかいです。６階建のビルの中に，３０人ぐらい，ガイド専門のお兄さん，お姉さんがいて，子供たちの相手をしてくれるのですけれども，そこの展示もすばらしいのですけれども，行くと，平日は学校の見学などが多いですけれども，土，日に行くと，子供があふれかえっているのです。親子でやってきて，まちの人たちが，そこで１日遊んで帰っていくわけです。先程話に出ていましたけれども，新札幌の青少年科学館に行くと，やはり子供が休みの日などは目を輝かせて走り回っていて，すごく楽しんでいる。それで何を受けとって帰っていくかわかりませんけれども，環境の関係で，そのように楽しんで帰れて，メッセージを伝えている施設があるのです。それは，例えば環境サポートセンターでは到底場所もないですし，できないことで，これも私個人の思いですけれども，子供を対象にやられるのだったら，ぜひそういうことができるところになってくれるといいなと，そんなふうに期待をします。それは私に何ができるか，もちろんお手伝いできることはあるかもしれませんけれども，ここに何を期待するのかということを市民として皆さん，望むことを出されてもいいのではないでしょうか。

○宮田課長　ありがとうございます。

○丹羽氏　先程はっと思ったのが，松本さんがおっしゃっていた，うちのお父さん，お母さんにそんなことを言ってもという発言があって，やはり圧倒的に環境問題は知っていても，そこをどうにかしていこうという人たちが圧倒的に少ないから，今問題が残っていると思うのです。だから，環境問題をあまり切り口にしてしまうと，人は取り込みにくくなるので，もっと何か，気がついたら環境問題だった，気がついたらそれが自分の力で改善できていたと。例えば子供に環境問題を話しても，多分全然興味ないと思うのです。そう言い切ってしまうと，奇特な人は別として，本当に子供たちが目を輝かせて遊べる，楽しめる，その結果として，これがそうだったのだということがわかるようなこと，それは子供の世界に限ったことではなくて，今の大人もやはりそうだと思うのです。ここにいる人

たち，本当に岡崎さんがおっしゃったように奇特な人たちで，環境問題を一生懸命考えて，何かをしようという思いが強い人たちなのですけれども，そうではない切り口で，気がついたら環境問題だったと。先程山本さんがezorockさんについておっしゃっていましたが，音楽を通じてとか，遊びを通じてとか，何か日常の生活の中にあることを通じてたどっていったら環境問題を，何か問題を露見していくのではなくて，それが改善できていたという，何かそんな手法がうまくここでもとれていけるといいなと感じました。

以上です。

○枡谷氏　桝谷と申します。今回初めて参加させていただきました。具体的な発案がなくて，この環境プラザにこんな人が集まったらいいな，何か具体的なことが思いつかないかなと思ったら，思いつかないので，その集まってほしい人のことについてお話ししたいと考えると，ひとつはデートスポットであってほしいなと思ったのです。結婚する前には，やはりこれから自分たちの生活を築く上で，これから子供も生まれるかもしれないという時に，今，アトピーとか様々な問題がありますから，そんな意味を含めて，結婚する前には一度来なくちゃという場所であってほしいなと思いました。

あともうひとつは，それと関連してくるのですけれども，いわゆる妊娠中のお母さん方に，やはり子供が生まれた時に，ホルムアルデヒドとか様々な問題がありますから，それは楽しくではなく勉強になってしまうのですけれども，次の世代を生むお母さんに認識してもらう場であってほしいと。ただ，どうしたらいいかという，その具体的な企画は思い浮かばなくて悩んでいたのですけれども，そんな人たちにも利用してもらえればと。

あとは，ミーハー的に，観光スポットでもいいかなと。皆さん関心のある方は，向こうにいらした時は，環境サポートセンターなり何なりを訪問すると。ここ，駅北口にあるのです。ですから，そういう意味で，ここに来ると御利益があるような，何かないかなと思って考えていたのですが，思いつかなくて，勝手なことを言ってしまいました。

以上です。

○参加者(女性)　いろいろお話を伺っていて，人に集まってほしい，そういうものであってほしいと思えば思う程逃げていくという部分もあるような気がするのです。いくらかいろいろなことがわかってきた私たちが考えると，普通の一般の人には受け入れにくいようなことを求めてしまうところがあって，自分たちが伝えたいと思っていくことがうまく伝わらないで滑っていくという部分があるような気がして，午前中からずっと私たちはそういったことについていろいろ話し合ってきたのですけれども，どうやって伝えたらいいのか，どのようにしたらいいのかと考える時に，やはり私たちより一般の方たちはもっともっと無関心な部分で生活しているということを頭に入れながらやらないと，難しいのかなと感じています。

○参加者(男性)　実は２月の初めぐらいに，近くに買い物に来た時に，たまたま雪が降っていたので，ここの建物を通ったら何となく駅の方へ行けそうだと思い，通りました。通った時に，１階にインターネットを無料でお借りして，環境に絡むことができると。私

は仕事の絡みもあって，温暖化のことだとか，そんなものも興味があったものですから，それをいろいろのぞいている時に，ちょっとそんな資料もほしいなと。私は江別の市民で，仕事で札幌に通ってきているのですけれども，札幌市民でも，この施設を知っている方がどの程度いらっしゃるのか。まずこの施設や展示物，いろいろなものがあるという情報を，子供さんたちにもわかるように発信してあげないといけないのかなと。とにかく１度は来て，こんな施設があって，こんな展示物があって，まだ私も展示品を詳しく見ていないのですけれども，ごみであっても，ものによっては，人によってはそれを再利用して，すごく有効な資源になるということもあるので，そんなことを学ぶ。子供だけで来るにも，足がなかったりと問題があるので，子供と大人が一緒に行動を，子供を介して大人が参加するとか，逆に大人に子供がついてきて，先程言っていた環境施設の見学ですか，そういったものも見に行くのではないでしょうか。たまたま私の身近に，スタンプラリーがとても好きな大人がいまして，よくあちこちの仕事に行っては，道の駅のスタンプを押したり，駅のスタンプを押したりしていました。２，３年前にたまたま彼とつき合って札幌市内の施設をいろいろと見学するスタンプラリーがありまして，それを見て回りました。わずかな時間で，１日のうちに何件か回ったのですけれども，その方の中学生の息子さんが結構いろいろと興味を持つ子供だったのです。札幌市のあちこちの施設を回れば，本当に短い時間ですけれども，その中で少しずつ，こんなものがあるんだ，こんな人がいたんだなと感じることがあると思います。先程おっしゃっていた環境マップというのは，僕も非常に興味があります。そういったことができれば，大人と子供と一緒に参加して，ごみであっても，例えばそれを有効利用できるものをつくっている事業所があれば，そこに行って目で見て，あるいはふれる。そんなことも発信できる基地といいますか，そんな形で利用できたらいいのかなと思いました。

○宮田課長　宇佐美さん，御発言ありますか。

○宇佐美氏　大変恥ずかしいのですけれども，私もだめ市民でございまして，こういった施設があることを先だって原田部長から御紹介いただいて，初めてまいったわけなのです。皆さん，先程からお話していますけれども，私自身もあまり環境ということには興味がなかった。市がやるだろうだとか，国がやるだろうだとか勝手な考え方で来ました。昨年，私事ですけれども，３０年間勤めた某会社を，東京転勤ということで，早期退職しました。１年間いろいろな事業をやって，だんだん環境方面に傾いていって，先だって原田部長に，その商品のＰＲかたがた，アドバイスをいただきながらお話をさせていただきまして，この会があるということで参加させていただいたのです。まず，私自身，先程お子さんのお話，いろいろ出ておりましたけれども，まず親なり大人が環境ということにやはり興味を持って考えていかなければいけないのではないかなと。そうなってお子さんたちに伝わるのではないかなと。できれば市民に対する啓発，そんな活動が非常に大切ではないかなと自分自身，この事業を始めてつくづくそう思っています。ある全国の主婦の団体さんだとか様々なところに，ビジネスは別として，こんな商品がありますので，水の環境

を含めて，お話だけでもと言ってお話をさせていただいたのですけれども，なかなか非常に皆さんの関心がない。薄い。そんな実態でございますので，私どものメーカーとしても，環境に対して非常に企業理念を持っている会社でございますので，できるだけ環境に対して我々も努力していかなければいけないのかなと，企業側の立場としてそう思っております。

以上です。

○宮田課長　ちょうどいい時間です。あともう２，３人，お話されていない方だけ伺って終わりにしたいのですけれども。

○坂氏　たくさん意見が出てしまったので，もう言うことはないかなと思うのですけれども，まずひとつ。ここが環境の拠点，発信基地，作戦基地になって，いろいろなことができたらいいなと私も思いました。今日，そうそうたるメンバーがそろっているので，例えばいろいろな環境に関する活動をやっているＮＰＯや市民団体の方が，札幌市に，こんなことをやるのだけれども一緒にやらないかと話をもちかけて，市がそれをでは一緒にやろうと，札幌市がいろいろな媒体を使って，市民に対しても，いろいろな環境団体に対しても呼びかけて，一緒にやる。一緒にやる場合もあるし，先程言ったみたいに，いろいろなところでいろいろな人たちが動くというやり方もあるし，それから，逆に札幌市が，札幌市は今度こういった新しいことをやるのだけれどもどうですかと，そういう団体の方にお知らせして参加してもらったり，それをまた市民に広げていくようなやり方とか，とにかく環境に関する，ここが拠点基地になって，発信されたり，発信し直したりできたらいいなと。札幌市の中でそういった環境的なことをやっている市民団体とかＮＰＯが連携して，ここはそんな環境市民団体連絡協議会のような，ここでいろいろな団体の人たちが集まって，活動報告し合ったり，情報交換し合ったりする。本当はみんな一生懸命やっているのだけれども，実はネットワークができていなかったりするところもあるかなと思うのです。札幌近郊，全道含めて，ネットワークがここを拠点にできたらいいかなとも思いました。

それから，レベルが低いかもしれないのですけれども，やはりここにたくさんの人が来てほしいというところでは，今，わりと子供がターゲットになっているかなと思うのです。サタデーテーリングでもうたくさんの子供たちが来ていると思うのですけれども，その子供たちがリピーターでもう１回来たいと思うような仕掛けはやはり大事だと思うのです。

それから，先程少し出たと思うのですけれども，今が化学物質に囲まれた生活であるとか，環境に関する情報が広く市民に伝わっていません。知らないことは決して恥ずかしいことではないので，そういったことを広く市民に伝えていく役割をここが担っていくべきだと思います。そうすると，例えば先程出ていた子育て中のお母さんが，子供をこれから育てていくのに，子供たちにいろいろなこと教えていく。子供をいろいろなよくない環境から守って育てていくので，様々な知識を持ってほしいなと。例えば子育て中のお母さん

を対象としたような，何かここでできないでしょうか。それも環境というと何か難しくて，お母さんたちは来ないから，あなたのお子さんのおもちゃは大丈夫ですかと，塩ビのことを含めたり，あなたのお子さんのミルク瓶は大丈夫ですかと，何か身近なもので，ん？とお母さんたちが思うような，行ってみたいと思うような，何かそんな仕掛けをしたりですとか。ここは本当に立地条件もいいし，雪にも雨にも濡れなくて，大丸はあるし，江別や手稲，小樽からでも，ＪＲでも地下鉄でもバスでも，ここはどこからでも来れるのです。だからここを生かさない手はないなと思います。

それから，お父さんを対象にするのもひとついいのではないかなと思うのです。例えばマイホームを建てたいと思っているお父さんが，建築材のこととか，何か勉強したいなと，身近なところでお父さんが少し聞いてみたいなと思うことをここで仕掛けてみるとか。それから，親子で来れるような，環境と難しく考えないで，ここに来たら，ちょっと子供を遊ばせて，お母さんもちょっとリラックスできて，帰りに買い物をして，ご飯を食べて帰れるような，託児室もあるみたいなので，そんなこともこの館の中でも連携ができたらいいなと。

例えば，ここで環境のことを少しだけ学んで，同じフロアか，上かな，調理実習室がありますね。あそこでエコクッキングをお母さんがやったり，親子でエコクッキングをやったり。環境プラザだけではなくて，館の中での連携を通して，人を呼び込めるような何か仕掛けをしていくとか。子供たちというところでは，今，小学生が多いと思うのだけれども，中学生や高校生にももっと来てほしいと思うのです。もう少しワンランク上の環境の提案型，それから，高校生などが勉強したいという部分について，ここで何か講座を受けてみるとか，セミナーがあるとか，そんな対象があってもいいのではないかなと。その子たちがやっぱり大きくなった時に，環境にやさしい大人になっていくだろうなと。小学生だけではなくて，中学生や高校生もあったらいいなと。

あと，おもしろい，楽しいというところでは，例えばここで環境にやさしいフリーマーケットを毎月１回だけ，日程を決めて，子供のお店だけをやるとか，お母さんたちだけやるとか。フリーマーケットというと，場所もいいし，身軽に来れるかなと。何か学ぶだけではなくて，ここで場所を使って楽しめるということも必要かなと。

やはり今日参加している皆さんは何だかんだ言いながら，ここを引っ張っていくのかなと思うのです。ひいひい言いながら岡崎さんが中心になったりして。でもこんな人たちが，札幌のこれからの環境問題を引っ張っていく人たちになっていくのだろうなと。ひとつひとつ活動を積み重ねながら，いろいろな市民を巻き込んで，いつの間にか環境を学ばせてしまうような，そんな楽しいことができたらいいなと思います。

〇宮田課長　どうもありがとうございました。

このプラザをどう運営していくかは，まさしくこのプラザを通して何をしていくかということがあって，その先に，ではどういう形で運営していこうかという議論されていく，そういったプロセスがあるのだと考えます。そういった意味では，もうしばらく，ここで

何ができるのかというテーマで話をしてみたい，市民の方の意見を聞いてみたいというのが私たちの本音です。

それで，今もお話ありましたけれども，ここの懇談会に出てきている人たちの意見が全体の意見ではありませんので，様々なターゲットに意見を聞くことを，実はやってみたいと思っています。そういった意味で，先程岡崎さんが提案してくれた，４月２２日のアースデイの日に，ファシリテーターを使ったりして，意見を聞く。その時に，環境というとなかなか来てくれないので，もっと気楽に来てもらえて，何かお話してもらえないかなという岡崎さんの提案に，できたらぜひ市ものっていきたいなというのが本音です。

それで，冒頭に岡崎さんの方からアースデイに何かやってみようという提案がありましたが，ぜひこの場を借りて御賛同をお願いできないかなと思うのです。いかがですか。ぜひやりませんか，みんなで。

○参加者(女性)　責任を持ってやる人は来ない……

○岡崎氏　今，４月２２日は何曜日かしらと言った人がいたのですけれども，２２日に来てくれというのではなくて，２２日をどうするか，それまでに何回か集まって考えていきましょうというまず御提案です。当日，来る，来ないは別です。きっと清水さんは来れないでしょうし。だからまずそれまで御参加できる人はいませんかというところかなと思うのです。で，２２日，何曜日ですか。

○　　氏　木曜日。

○　　氏　何をすればいいかわからないというところで，一応。

もう地図の話が出ているようなので，話しやすいのですけれども，地図づくりを少し手伝わせてもらっています。自分が自己紹介と兼ねて，いろいろな人に来てほしいと言ったのは，ひとつは，やはり後ろで地図をつくっているという思いがあります。つくっているのは，別に特別環境と関係ないような地図なのですよね。要するにいろいろな人が来て，情報の交換ができる場所にするためのひとつの手法です。地図という掲示板に，知っている人が貼って，知りたい人は見に来ると。だから，例えばここをデートスポットにしたいというのであれば，その地図を使って，その地図に春のデートスポットを貼っていただければ，そのデートスポットを見に来る人たちの集まりになるわけで，何にでもなると思うのです。地図をつくる話をした時に，黒沼さんだったか，鼻で笑われたような話なのですけれども，札幌市のいろいろな情報があって，ここに来たらもう札幌市のおもしろいところが，ガイドに載っていないようなものがたくさんあって，立地条件もいいから観光客がわんさと来るようなところになるよというような話をした記憶があります。

そして今回，つくるーんの中で，地図づくりを１カ月間だけやるということで，３月何日からだったか，あるのですけれども，４月の２５日までやるのかな。ちょうどアースデイに引っかかっているのですよね。であれば，もしもそれまでにおもしろいネタがたくさん集まっているのであれば，例えばアースデイは何かひとつをやるのではなくて，そういったネタを複合したもので，ではつくるーんではネタの解説を，だれかが写真を撮りに

いって，こんなところをスポット解説みたいなこともできるかもしれない。これでひとつネタが増えたかなと。であれば，ひとつネタがあれば，私もこんなことができるんじゃないと，これだけのそうそうたるメンツであればいるのでないかなと思います。
○宮田課長　ありがとうございます。
　時間がなくなってきましたので，この提案に対する参加を皆さんに呼びかけますので，ぜひふるって参加をしてください。ぜひアースデイを一緒にやりましょうよ。
　まだ今日発言されていない方がおりますので，発言されていない方に発言をしていただいた後で，今日の板書の整理をお願いしたいと思います。
○新保氏　発言をしていない新保です。今日も鼻息ですみません。
○澤田氏　質問。４月２２日はどうしてアースデイなの。本当にわからなかった。
○新保氏　それを板書係の私に？
○澤田氏　いやいや，わかっている人は教えて。
○新保氏　アメリカの人がですよね。
○参加者(男性)　地球のことをみんなで考えましょうと呼びかけたのです。
○参加者(女性)　そうですよね。
○参加者(女性)　９０年が１回目のアースデイで，わっとやりましょうと。それから結構細々とやっていて，２０００年でもう１回，わーっとやりましょうと。
○澤田氏　２２日がちょうどみんなで合致した，やりましょうの日だったのですか。だれか提案して，９０年ぐらいから２２日はアースデイという形で，全国で，世界でやられているということなのですね。そうしたら，発案が２２日だったからと，そういうことなのですか。
○参加者(女性)　提案された，その日にやりましょうということですね。
○参加者(女性)　祝日のようなものですよね。
○参加者(女性)　なぜ子供の日が５月５日なのですかみたいな。
○参加者(女性)　カレンダーにのっていないだけで。
○新保氏　今日のテーマで，一体ここで何ができるのかという様々な意見が出て，最後に４月２２日のアースデイに皆さんで何かしませんかと，こういった流れになりました。それで，とてもたくさんいい意見が出て，私の頭にそれらをつなげる企画が浮かびました。アースデイ共同寄せ鍋。複合アンド複合企画。この日は寒いです，４月だから。地図づくりの人は外から帰ってきて寒いし，この中で遊んでいる子供たちは，黒沼さんと渡辺さんたちが一生懸命つくっているカードを見ながら，そこでスタンプラリーをしつつ，外でもスタンプラリーをして帰ってきた人たちのために，矢印を微妙に調理室へ設け，調理室では鍋があって，そこで食べ物のエコクッキング，また生態系について学んでいると，だんだん日が暮れて暗くなってくるので，カップルがロウソクの火を持ってロマンチックに鍋をつつき，そこで，ここに来ている皆さんがぼやきながら鍋をつつく。このマイクにはタイマーがついていて，回っているうちにピピピッと鳴り出したら，その人が今後のあり方

について必ず言わなくてはいけない。言えた人は帰れる。今回，マイクを回すのがとてもいいなと思って見ていたのです。どうでしょう，大体網羅されたかなと。そこでギターなども弾きつつ，オカリナもありで，何となくそういうことができたらいいかなと。すみません，ふざけましたけれども，何となくそんなイメージが浮かびました。

以上です。

○事務局　今，新保さんが言われたようなことが，これから２２日に向けて，皆さんでお話し合いがされるのだろうと思います。

今日は皆さんのお話を聞いていて，大変うれしく思って聞いていました。

ちょうど昨年の３月に，市民意見交換会がありまして，その時の雰囲気はかなり居づらい雰囲気だったのです。でも，こんな話ができるようにしたいと思いました。１年たって，とてもよくなったと思っています。

それで，この環境プラザはまだ，昨年の９月にオープンですから，形もよくできていませんし，それから予算の問題などもあるわけですけれども，先程施設の一覧表を皆さんのところにもお配りしましたが，おそらく全国でも，この駅に直結しているような施設というのは恐らくないのではないかと思います。京都の京エコロジーセンターも，それから北九州の環境ミュージアムも，地下鉄でだいぶはずれの方まで行き，そこから１０分１５分ぐらい歩かないと行けないところであります。ですから，人が集まるにはすばらしい場所であります。そういった地の利がありますし，ソフト事業はみんなで形をつくっていけばできないことはないと僕は思っています。岡崎さんが一番初めに提案をしていただいた中に，幅広い層からの多様なニーズを汲み上げることが必要だと書いてありました。まさしくそのとおりだと思っています。責任を持ってやれという声が出ていましたけれども，それだけではなく，ここでこんなことをしてほしいのだ，こうなってほしいのだという要望を出していいのではないかと久保田さんが言っていました。まさしくそうであって，こんな環境活動をしたい，こんなことを知りたい，どこかでこんなことがあったらいいなという市民の声がどんどんどんどんわかってきたら，では環境プラザで何ができるか，またみんなで知恵を出すことができるのではないかと思います。

それから，ここの場所を使って何ができるかという話も出ていましたけれども，環境プラザは環境教育施設という位置づけです。実は様々な議論の中で，フィールドでの環境教育もあるので，それはどのように扱うのだということも議論されています。ここは情報拠点であって，ここでフィールドのことはできませんけれども，ここで情報を得て，フィールドで実際に活動することもできるわけです。

それから，今日来ておられる方の発案ではないのですけれども，例えば大人をターゲットにするのか，子供をターゲットにするのかといった中で，若者をターゲットにするということがひとつ大変重要ですね。清水さんのようにいつも参加してくれている方が，就職されて，北海道を去られてしまうので大変寂しい思いをしているのですけれども，やはりそういった若い人が集まるような仕掛けも必要だと思うのです。BeGood Cafe(ビーグッド

カフェ)というイベントが東京の方で始まって，そういったことをぜひ札幌でやりたいという若者がいます。どんなものかというと，音楽を演奏して，オーガニックフードを食べて，金髪の若者が環境のお話をするという，そんなイベントのようです。ここの環境プラザは複合施設ですから，いろいろなものがあります。ホールもありますし，喫茶店もあります。それからオーガニックフードみたいなものをつくろうと思ったら，調理室みたいなものもあります。ですから，そんなこともやろうと思えばできる可能性があるわけです。ですから，いろいろな可能性があると思います。今，今日いきなり言われて，具体的にと言われてもなかなか出ませんというふうな声がだいぶありましたけれども，それはあたりまえだと思います。ですから，そういうことについては，そういうことを皆さんに声をかけていって，時間がたつと，思いつきのようなことでもいろいろなものが出てくると思います。ですから，そういうことを積み重ねていくといいものができるのではないかなというふうに，大変うれしく思いながら考えていました。

そういう体系的に考えることも必要ですし，こういうふうに一つのイベントをして盛り上がろうというようなことも必要ですから，いろいろなことをともかくやってきましょうというように思います。ですから，これからもそんなことでぜひ集まっていただきたいし，一緒になってやりましょうということで，よろしくお願いします。

○宮田課長　岡崎さんからちょっと。

○岡崎氏　今，チラシを配らせていただいたのですけれども，私からというよりは，本当は札幌市からのお願いです。私は，それを委託を受けています北海道新聞情報研究所で客員研究員としてちょっと仕事をさせていただいているので，かわりまして御案内いたします。

３月の１３日にごみゼロシンポジウムを開きますので，ぜひぜひいらしてくださいませ。

以上です。

○宮田課長　市になりかわっていただいてどうもありがとうございます。

いつもでしたら，次回の懇談会の日程をここで決めてお話しするところなのですが，今回は，先程お話ししたように，いろいろな人といろいろなことをさらに何をしたいかというのを聞いてみてから，そういうものが少し見えてから，それを含めてお知らせできたらいいなというふうに思っています。それで，日程は決めませんので，また改めて広報させていただきますので，ぜひまた次の懇談会に来ていただければと思います。

○　　氏　日程について，こういう会議がある日程を見つけるのは大変なのです。久保田さんが今回，　　です。それで見つけたのですけれども，札幌には札幌元気シティというホームページがあるんですね。そこに日程を　　欄があるのです。そこで，札幌市の施設なのに　　しないのはおかしい。　　いただきたいと思います。

○宮田課長　前回の懇談会の時に，次の日を決めてお話をするのと，プラザのホームページの中で広報させていただいているので，確かに広報の仕方については毎回御指摘がある

ところで，私たちもいろいろな形で勉強していきたいと思っていますので，次の懇談会については，またそういう形で広報させていただきますので，ぜひ参加の程お願いいたします。

今日は時間超過して申しわけありませんでした。本当に今日の参加，どうもありがとうございました。